

# 感染症学

責任者・コーディネーター	情報薬科学分野 西谷 直之 教授		
担当講座・学科(分野)	情報薬科学分野、医学部臨床検査医学講座		
対象学年	2	区分・時間数	講義 16.5 時間
期 間	後期		
単 位 数	1 単位		

## ・学習方針（講義概要等）

感染症学では既習の微生物学の知識を基にして、感染症の侵入門戸・発症機構・病態などの感染症の基本的知識を習得させる。また、新興・再興感染症や医療関連感染が現代社会に脅威を与えている現状を理解させ、これらの感染症の防止対策を学ぶ。

## ・教育成果（アウトカム）

感染症とその病原体に関する基本的知識の修得を通じて、ウイルス感染症、細菌感染症、真菌感染症、原虫感染症などの代表的な感染症の発症機序や臨床像を理解することができる。また、感染症についての現状とその予防に関する基本的知識を修得することで、公衆衛生の向上に貢献する基盤を形成する。  
(ディプロマ・ポリシー：2, 6, 7)

## ・到達目標（SBO）

1. 感染の成立（感染源、感染経路、侵入門戸など）と共生（腸内細菌など）について説明できる。
2. 呼吸器感染症について、病態（病態生理、症状等）、感染経路と予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
3. 消化器感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
4. 尿路感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
5. 性感染症について、病態（病態生理、症状等）、予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
6. 神経系感染症について、病態（病態生理、症状等）、予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
7. 皮膚軟部感染症について、病態（病態生理、症状等）、予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
8. 全身性感染症について、病態（病態生理、症状等）、予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
9. 日和見感染と医療関連感染について説明できる（☆）。
10. 新興感染症および再興感染症について代表的な例を挙げて説明できる。
11. 医療関連感染について、発生要因、感染経路、防止対策を概説できる。（☆）

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
9/4	火	2	情報薬科学分野	西谷 直之 教授	<p>概論、呼吸器感染症①</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 接触感染、飛沫感染、空気感染について説明できる。</li> <li>2. 上気道感染症(上気道炎、気管支炎、咽頭炎、扁桃炎、伝染性単核球症)の成因と病態を説明できる。</li> </ol>
9/11	火	2	情報薬科学分野	西谷 直之 教授	<p>呼吸器感染症② 耳鼻咽喉感染症</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 市中肺炎・院内肺炎・医療看護関連肺炎の成因と病態を説明できる。</li> <li>2. インフルエンザの成因と病態を説明できる。</li> <li>3. 結核の成因と病態を説明できる。</li> <li>4. 代表的な耳鼻咽喉科感染症(急性副鼻腔炎、中耳炎、耳下腺炎)の成因と病態を説明できる。</li> </ol>
9/18	火	2	情報薬科学分野	西谷 直之 教授	<p>尿路感染症・性感染症</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 尿路感染症(単純性尿路感染症、複雑性尿路感染症)の成因と病態を説明できる。</li> <li>2. 尿道炎の成因と病態を説明できる。</li> <li>3. 代表的な性感染症(骨盤内炎症性疾患、性器ヘルペス、尖圭コンジローマ、子宮頸がん、梅毒)の成因と病態を説明できる。</li> <li>4. HIV 感染症の成因と病態を説明できる。</li> </ol>
9/25	火	2	臨床検査医学講座	小野寺 直人 講師	<p>中枢神経感染症・眼感染症</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 髄膜炎の成因と病態、治療を説明できる。</li> <li>2. プリオン病の成因と病態を説明できる。</li> <li>3. 眼感染症(麦粒腫、眼窩蜂巣炎、涙嚢炎、涙小管炎、結膜炎、角膜炎、眼内炎)の成因と病態、治療を説明できる。</li> </ol>
10/2	火	2	情報薬科学分野	西谷 直之 教授	<p>消化器感染症①</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 腸管感染症の成因と病態を説明できる。</li> <li>2. 胃潰瘍・十二指腸潰瘍の成因と病態を説明できる。</li> </ol>

10/9	火	2	情報薬科学分野	西谷 直之 教授	<p>消化器感染症②</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経口感染する肝炎 (A 型肝炎・E 型肝炎)の成因と病態を説明できる。</li> <li>2. B 型肝炎の成因と病態を説明できる。</li> <li>3. C 型肝炎の成因と病態を説明できる。</li> <li>4. 胆道・胆管感染症の成因と病態を説明できる。</li> </ol>
10/16	火	2	臨床検査医学講座	小野寺 直人 講師	<p>皮膚・軟部組織・筋・骨関節感染症</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 代表的な皮膚・軟部組織感染症 (尋常性ざ瘡、白癬、マラセチア感染症、膿痂疹、丹毒、毛囊炎、水痘・带状疱疹、ヘルペスウイルス感染症、蜂窩織炎、壊死性筋膜炎)の成因と病態を説明できる。</li> <li>2. 代表的な骨・関節感染症 (骨髄炎、化膿性関節炎)の成因と病態を説明できる。</li> <li>3. 麻疹、風疹、突発性発疹、手足口病、ハンセン病の成因と病態を説明できる。</li> </ol>
10/23	火	2	臨床検査医学講座	小野寺 直人 講師	<p>心血管系感染症・全身性感染症</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 敗血症性・敗血症性ショックの成因と病態を説明できる。</li> <li>2. 血管内カテーテル関連感染について概説できる、</li> <li>3. 感染性心内膜炎の成因と病態を説明できる。</li> <li>4. 発熱性好中球減少症の成因と病態を説明できる。</li> </ol>
10/30	火	2	臨床検査医学講座	小野寺 直人 講師	<p>薬剤耐性の病原体、新興・再興感染症</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. グラム陽性の薬剤耐性菌 (MRSA, VRE, VRSA, PSRP)の特徴を説明できる。</li> <li>2. グラム陰性の薬剤耐性菌 (ESBL 産生菌、MDRP, MDRA, BLNAR 等)の特徴を説明できる。</li> <li>3. 代表的な新興感染症を列挙できる。</li> <li>4. 代表的な再興感染症を列挙できる。</li> </ol>
11/6	火	2	臨床検査医学講座	小野寺 直人 講師	<p>院内感染予防</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 院内感染の発生要因、原因微生物、感染経路及びその防止策を概説できる。</li> <li>2. 院内感染対策の取り組みを概説できる。</li> </ol>

11/13	火	2	薬学部情報薬科学講座	西谷 直之 教授	感染症の薬物治療 1. 代表的な細菌感染症、ウイルス感染症、真菌感染症、原虫感染症の薬物治療を概説できる。
-------	---	---	------------	----------	--

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	図解 微生物学・感染症・化学療法	藤井 暢弘、山本 友子 編	南山堂	2014
参	薬学生・薬剤師レジデントのための感染症学・抗菌薬治療テキスト	二木 芳人 編	じほう	2015

・成績評価方法

定期試験（90%）、授業中の確認問題（10%）を総合的に判断する。

・特記事項・その他

授業の最後に確認問題を実施する。講義プリント、確認問題を復習すること。確認問題の解答・解説、確認問題マークシートに記載された質問への解答・補足説明等は、翌回の講義で行う。  
授業に対する事前学修（予習・復習）の時間は最低 30 分を要する。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	Macbook Air ZORK0005A	1	講義資料作成、講義